

令和５年度 第２回千歳市公立大学法人評価委員会 議事要旨

１ 日時 令和５年７月３１日（月） １４時から１４時４５分まで

２ 場所 千歳市役所庁議室

３ 出席者

【委 員】 委員長 馬場 直志
委 員 小川 恭孝
委 員 福村 景範
委 員 北村 茂樹
委 員 千葉 崇晶

【千歳市】 企画部 大和部長、米澤次長
公立大学政策課 前田課長、増田係長
産業振興部科学技術振興課 藤木課長

４ 傍聴者 ５名

５ 会議次第

- ・開会
- ・議題

（１）公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和４年度及び第１期中期目標期間（４年目終了時）
業務実績報告について

（２）今後のスケジュールについて

（３）その他

- ・閉会

６ 会議の概要

（１）結果概要

第１回評価委員会における意見を踏まえ作成した令和４年度及び第１期中期目標期間（４年目終了時）業務実績評価書（案）について審議を行った。本日の意見を踏まえ評価書（案）を修正することとし、その内容確認については委員長に一任された。また、評価スケジュールについて説明し、了承された。

（２）議事概要

議題（１）公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和４年度及び第１期中期目標期間（４年目終了時）業務実績評価書（案）について
評価書（案）について事務局が説明し、その後審議を行った。

【事務局】 前回の評価委員会での意見を反映させ、誤字を修正し評価書（案）を作成した。審議の前に、前回いただいた質問について、大学から回答する。

【法人】 質問への回答に先立ち、提出済みの財務諸表を次のとおり訂正する。財務諸表３ページの損益計算書の注記事項１ 資本剰余金を減額したコスト等に関する注記について、令和４年８月に改正された地方独立行政法人会計基準及び地方独立行政法人会計基準注解に基づき、減価償却相当額と賞与引当金増加相当額の小計を 218,975,828 円に訂正する。また、９ページの 公立大学法人の業務運営に関して住民等の負担に帰せられるコストに記載されている、２．資本剰余金を減額したコスト等について、218,975,828 円に訂正し、４．公立大学法人の業務運営に関して住民等の負担に帰せられるコストを、1,180,738,577 円に訂正する。

次に、前回の質問（大学の総利益と住民等の負担に帰せられるコストとの関係について）について回答する。住民等の負担に帰せられるコストの内訳は、業務費用（損益計算書上の費用から自己収入である授業料等を引いた額）、資本剰余金を減額したコスト等（減価償却相当額と賞与引当増加相当額）、機会費用（市の出資額を市場で運用したならば得られていたであろう金額と市の派遣職員の退職金増加分）を合計したものであり、1,180,738,577 円となる。したがって、総利益と住民等の負担に帰せられるコストは、直接の関連はなく、前者は、大学活動による経営努力などの状況を把握できるもの、後者は、市の大学への出資等が住民負担として適切であったかどうかの目安になるものという位置づけである。

もう一点の質問（ファイナンスリース取引に関する重要性の注記について）について回答する。本学では、地方独立行政法人会計基準、地方独立行政法人会計基準注解Ｑ＆Ａ及び企業会計基準適用指針に基づき、未経過のリース料の期末残高の、有形固定資産及び無形固定資産の期末残高の合計額に占める割合が 10%未満であったことから、重要性が乏しいものと判断し、記載をしていない。

【委員Ｄ】 了解した。ファイナンスリース取引額の割合が 10%未満とのことだが、令和５年３月末で具体的に何%であったか。

【法人】 後日回答する。

【事務局】 小項目別評価（案）の修正点について説明する。78 ページの下段の指標②⑨、奨学寄附金の受入れ実績について、年度評価をＣ、中期目標期間評価（４年目終了時評価）をＢとし、また、評価委員会の意見等として、今後も取組を継続することを期待するという内容を記載している。次に、81 ページの下段の指標③⑩、予算の収支均衡について、評価自体は大学の自己評価と変更ないが、評価委員会の意見等として、大学の財務運営は利益を出すことは目的ではないため、利益が生じた場合は、その内訳や予算との差が出た理由を明らかにすべきであるという内容を記載している。

【委員Ａ】 特に意見はないか。

【各委員】 ～同意～

【事務局】 令和４年度業務実績評価書（案）の修正点について説明する。目次の最下段に、本文に記載の「番号及び指標」について、何の番号かわかるように、引用元である小項目別評価の番号欄に記載の番号及び指標であることを明記した。次に、４ページの総評のうち、業務運営面で科研費申請率の向上が自己収入増に貢献したと記載していたが、申請率の向上が自己収入増に直結しないということで、教員の意識醸成に資するものという表現に改めた。次に、14 ページの財務内容の改善に関する目標を達成するための措置について、今後期待すべき事項に２点追記した。１点目は、先ほど説明し

た奨学寄附金について追記し、2点目は、物価高騰や円安の影響を受ける中、効果的な事業実施と経費節減を期待するという内容を追記した。

【委員A】 タイ - 日工業大学という名称について、かっこ書きで（泰日工業大学）としたほうがよい（その他、不要語句削除の意見あり）。他に意見はないか。

【委員B】 指摘したところは修正されており、妥当と考える。

【各委員】 ~同意~

【事務局】 続いて、中期目標期間（4年目終了時）業務実績評価書（案）の修正点について説明する。

目次の最下段の追記については、先ほどの記載と同様である。5ページの研究教育等の質の向上に関する目標を達成するための措置について、6ページの特記すべき事項の2項目目の共同研究、受託研究の実績が着実に増えているとしていたが、毎年度の件数を列挙し、おおむね順調に増やしていると改めた。また、今後期待される事項について、半導体関連企業の立地による人材育成の必要性について追記した。次に、13ページの財務内容の改正に関する目標を達成するための措置について、小項目別評価で奨学寄附金の指標をB評価としたことから、それに合わせて下段の評価理由を修正した。14ページの特記すべき事項について、科研費の申請率の推移を年度ごとに列挙し、年々上昇していることがわかるように改めた。また、今後期待すべき事項として、奨学寄附金についての意見内容を追記した。

【委員A】 6ページで、「最先端の半導体製造工場が建設され」を、「最先端の半導体製造工場が建設される予定で」に、「地元への就職による経済効果も高いことから」を、「地元への就職による高い経済効果も見込まれることから」としていただきたい。他に意見はないか。

【委員B】 指摘したところは修正されており、妥当と考える。

【委員C】 大枠が替わるような変更でなければ、委員長に一任する。

【各委員】 ~同意~

議題

（2）今後のスケジュールについて

（3）その他

特になし